

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300453		
法人名	相清福祉会		
事業所名	グループホーム希望(のぞみ)の里		
所在地	山口市鑄銭司12361-3		
自己評価作成日	令和5年7月22日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ADLの高いご利用者が多く、残存機能(身体能力も含む)を維持する為、体操や散歩等を重視に取り組んでいます。毎朝10:00から約1時間掛けてテレビ体操(5分程度ラジオ体操等)やストレッチ体操、発声体操(パタカラ体操や歌レク)、舌体操に取り組んでいます。また家事仕事(生活リハビリ)も出来る範囲(可能な利用者のみ)で行って貰う様になっています。認知症予防として脳トレ(言葉遊びやプリント問題等)や外出援助(四季折々のお花見学など)にも取り組んでいます。特に外出は全利用者が大変喜ばれ、意欲向上にも繋がるのでおよそ5回以上は外出(ドライブ外出も含む)する様にしています。家族の繋がりがりとしては毎月「ご家族様便り」を一人ひとりに発行し、その月の状態報告を詳しくお知らせする様にして各ご家族に発送しています(月行事写真も送る様にしています)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム希望の里は、理念に沿って外出支援を行っている。年間を通じて出掛ける先は県下と限られているが、鯉のぼり見学やバラ園の見学、また市内巡り等、月に4-5回ドライブを行っている。日頃は室内で運動会やお茶会、カレンダー作り、脳トレ等の様々なレクリエーションを行い、リハビリの観点から機能体操は特に力を入れている。職員は利用者の毎日の状態を観察し、ミーティングで課題があれば検討を行い、日々のサービスの向上に積極的に取り組んでいる。母体が医療関係でその利点を活かし、新型コロナウイルス感染症のみならず、脱水症や熱中症等、製薬会社より外部講師を招き予防に努めている。防災についても事業所の位置関係を確認し、危険性を把握し避難訓練を行うと共に次のステップに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕【文字サイズは10ポイントのまま変更しないでください】

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	棟内に、法人理念とグループホーム理念を掲載しており、常日頃から確認が出来る様になっている為、実践に繋げている。	法人理念に基づき『その人らしい生活リズムで、出来ることは自分で行い、心豊かに楽しく過ごす』を事業所の目標に掲げ支援している。目標は年度初めに見直す機会を設け、評価を行い職員間で情報を共有し支援に繋げている。また毎月のミーティングで確認し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍である為、中々地域との繋がりが出来ず、地域行事の参加が難しい状況にあるが散歩や通院に出掛けた際に知人と会話をしたりする事もあるのでその際は繋がりは持てている。	法人が町内会に加入し、回覧版等で地域の情報は事業所も共有している。地域とのつきあいは、近隣の特別支援学校から運動会の見学の誘いを受け、 TENTを用意してもらう等、地域の一員として交流がある。また福祉専門学校の生徒が実習生として訪問する等、地域とつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍である為、地域交流が難しく、支援方法等活かされていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価の結果表を玄関先に置き、誰でも閲覧出来る様にしている。改善に向けては月1度のミーティングで話し合いを持ち、取り組む様にしている。	自己評価の作成にあたり、管理者と職員は話し合いを行い、日々の支援状況を客観的に評価を行う事で、サービスの向上の目的を理解している。また他のグループホームの提案でネットワークを作り、情報を共有しながら評価の意義や理解に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議が開催出来ない為、書面を各担当者(ご家族も含む)に郵送し、アンケート用紙に記入して貰い意見として反映している。(この方法は市の介護保険課にて了解を得ている)。家族の要望や希望も書いて貰っており、反映出来る様にしている。	会議は書面での形式で、最近2回は通常の形式で行っており、多職種の関係者に郵送し意見をもらい、より良い支援に活かす取り組みがある。事業所は現在の状況を細かく報告し、質問があれば答えている。議事録は毎回関係者に送付し、更なる意見交換に繋げ、サービスの向上に活かしている。	会議は定期的に行われているが、議事録として家族に届けられていない。今後の改善課題の情報共有のためにも、議事録の送付が望まれる。また家族の意見を促す等、更なる取り組みを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市に出向いて連絡や相談をしている。質問がある時には指導監査課に指導も受けている。	市町の担当者とは、事業所の管理者が窓口に出掛け、例えば介護保険課で利用状況を確認したり、質問や相談をしている。地域包括支援センターとは、利用希望者の情報を得て、利用につながった事例もある。また市町が主催するリモート研修に職員が参加している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は敷地内の門や玄関等施錠をせず、いつでも出入りが可能な状況となっている。夜間のみ施錠をする様にしている。身体拘束は絶対に行わない様に常日頃から職員同士で徹底している。	玄関の出入りは自由で職員は見守りをし支援している。職員は身体拘束とは何かを確認しながら支援し、スピーチロック等、拘束しないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回法人の研修や職員間ミーティングにて学んでいる。事業所内での虐待が早期に発見出来る様に監視カメラを各廊下に設置している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回法人の研修にて学んでいる。必要がある場合は話し合いをする予定。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結や解約時は十分に説明を行い、納得して理解して貰っている。利用者や家族から不安点や疑問点がであれば真摯に受け止め不安解消に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関先に設置し、投函できる形を取っている(但しコロナ禍である為、面会が出来ない状況にあった)。相談や苦情の受付は電話対応で行う様にしている。管理者が対応し処理を進める形としているが、現在は相談や苦情などは無い。	家族からの意見は、運営推進会議で意見を聞き取り、また来所時に話をする等、さまざまな機会を設け、利用者がより良く暮らせる仕組みがある。管理者及び職員は、それらの意見を運営に反映し、更なる支援を行っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃のコミュニケーション時に意見や提案を聞き、ミーティング時や申し送りノートを活用しながら全職員の意見を反映する様にしている。	職員からの意見は会議の場のみならず、様々な場面で行っている。例えば業務改善で利用者の状態が悪化したため話し合い、ケアの工夫など改善を行い、必要に応じて意見を反映させている。また法人は職員の研修、資格取得等をバックアップし、キャリアアップへの協力を行っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3月に各自自己評価表を作成して貰い、現場の管理者も職員個々の人事考課表を作成し、代表者に提出している。労働時間も管理者を通じて人事部に相談し、条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度法人内研修を行っている。偶数月はグループの相川医院から院長(理事長)や看護師長から研修を受ける体制になっている。研修も強制ではなく任意となっている。	働き易い環境を作る為管理者は、職員と日々の細やかなケアの工夫など話し合い、職員から情報を得て業務を行っている。また、職員一人ひとりの能力や状況に応じて、時間をかけて育てよう取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和4年度まではコロナ禍で交流自体出来ない状況にあったが、令和5年度から別施設の運営推進会議に参加させて貰い(学識有識者として)同業者との交流を深めている。お互いの良い所を言い合いサービス向上に努めている。リモート研修も年に数回ある為その際は参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時は不安感が強い為寄り添う様に心掛け、声を掛けながら気持ちを和らげ、声を出して笑える環境にする事で不安感を取り除く様にしている。その際、趣味や好きな事も聞き出し信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階から不安や要望を聞き出す様にして、安心感を与えられる様に助言し、関係作りに努める様にしている。入居から1週間後に様子の連絡をする様にしている(変化がある時は随時連絡している)。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点を洗い出して支援の見極めを図り、まず改善出来る事から行う様にしている。他のサービス利用も含めた対応も行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリ(家事仕事など)を通して出来る事は行って貰う様にして、支援が必要な部分は援助しながら関係作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様便り(1ヶ月の様子を文章で発行)を発行し、また必要に応じて様子を電話連絡して家族との関係性を図る様にしている。電話連絡をする際はご本人にも出て貰う様にして、絆を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ外出をした際に自宅周辺を訪れたり、馴染みのある場所に出向いたりしている。一時外出も行っており、その際に近所の知人にも会っている。馴染みの美容院(理髪店)にも今後行く予定にしている。	コロナ禍で外泊や外出が行いにくい現状の中、家族の協力で出掛ける利用者もいる。また事業所は毎月4~5回、県内に限られてはいるが情報を得ながら、利用者とドライブに出掛けている。職員は利用者や家族が希望することを把握し、関係の継続に努め支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハビリ(家事仕事など)を通じて、利用者同士で一緒に行う事により協調性が出る様に支援している。毎月の行事も全利用者が参加出来る様にしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、大半がグループ内の特養に移られる為、相談員を通じて関係性は続く様にしている。相談等があった場合は支援に努める様にしている。また、ご逝去された時は自宅に出向きお焼香を上げさせて貰っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方に違いはあるが、希望や意向に沿う様に配慮している。本人の生活スタイルを大事にしている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、起床が遅い利用者には遅い朝食を準備し、家事が好きな人は暮らしの中で活躍する場を設けている。テレビ鑑賞、歌の好きな人、趣味を楽しむ人もいる。意向の把握が困難な利用者は、想いを汲み取り、出来る限りその人の生活スタイルや希望に近づけるよう支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の段階から生活歴や生活環境など家族から聞き出し把握に努めている。今までの自宅生活に近い形になる様に配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方は人それぞれあるので生活スタイルを大事にしている。散歩や体操等のレクリエーション時には声を掛けて誘う様にしている。生活リハビリ(家事仕事など)が出来る方は残存機能を活かせる様にして現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から希望や要望を反映出来る様に担当職員が聞き出し、また課題を分析してミーティング時にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。作成後は家族に説明を行っている。	通常モニタリングは3ヶ月に1回本人、家族の意見が中心となり利用者毎の担当職員、管理者、介護支援専門員が現状に即した計画を作成している。又、状態の変化がある場合は、職員及び関係者から情報を得て話し合い評価、見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や介護計画の評価をする事で個別の記録(支援経過)に記入し、実践や見直しが出来る様に職員間で情報共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズ(課題)に対応する様にしている。課題ばかりではなく、その方の長所を生かせる様な支援を提供している。またサービスの多様化にも取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用したり、時々ドライブ外出をして心身ともにリフレッシュになる様に支援している。外食援助や買い物支援も行い豊かな暮らしが出来る様にもしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全てのご利用者を同じかかりつけ(相川医院)にする事で適切な医療を受けてもらえる様にしている。また夜間体制も迅速に対応出来る様にしている。	協力医は、同じ法人内に常駐し、定期的に受診している。利用開始時本人、家族に説明を行い、全員、協力医療機関がかかりつけ医として了解を得ている。更には看護師、薬剤師、担当職員と連携を取り、有事の対応は法人内の医師の判断のもと、素早い対応が確保されている。また必要に応じて他科受診や、歯科受診も適切に行っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約を結び、月3～4回来訪して貰っている。日常の情報や気づきを伝え相談している。緊急時の場合は連携が図れる体制となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際は関係病院との情報共有がスムーズに行える様に、サマリー(情報提供書)を作成し情報交換が出来る様に関係作りをしている。退院の目途が立った際は相談員(SW)と密に連携を図って関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度アンケートを実施し、今現在の家族の思いを聞いている。大半のご家族はグループホームで終末を希望されていない為、重度化した場合は再度確認する形にしている。事業所で対応出来る事も十分に説明している。	利用開始時に法人の「終末期に向けた方針」を、家族に説明し了解を得ている。重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示のもと、主には法人内の施設を紹介している。職員は重度化予防に重点を置き研修を受けながら、事業所の方針に従った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書を活用して未然に事故を防ぐようにしている。事故発生時は事故報告書の記入を行い、事故防止委員会にて毎月報告をしている。AEDの使用方法や応急対応など、ミーティングや法人内研修で訓練を行い、実践力を身につけている。	突発的な事故や発熱、誤嚥、窒息、転倒などに加え、新型コロナウイルス感染症対応など、体調の変化が起きた時、発生時の備えを職員は話し合っている。ヒヤリハット等も、報告書を申し送りノートに付け職員間で対策を共有し、緊急対応力を身につけ実践に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災(災害・火災)訓練を実施し、利用者を巻き込んで避難訓練を行っている。地域との協力体制は地理的に難しい為、非常時は近隣にある消防学校と連携が図れる様になっている。	年2回夜間想定を含め、定期的に避難訓練を行っている。地域との連携は運営推進会議を通じて働き掛けている。近隣に山が有り、ハザードマップで位置、危険性は把握し職員は情報を共有しながら対応している。防災担当者は法人内研修に参加しており備蓄は確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自信を損失する様な言葉掛けは避けて、思いやりのある対応を心掛けている。時には冗談も言いながら信頼関係を築いている。	職員は日頃より利用者の、その時の気持ちを考え、対応出来るよう接している。また生活歴からヒントを得て、改善しながら支援に取り組んでいる。特に言葉かけはその方の人格を大切に対応し、信頼関係を築くよう取り組んでいる。	利用者に対しての呼び名が、各職員で異なり、不適切な呼び名(～ちゃん等)を使用している職員もいる。今後は統一した不快のない呼び名となるよう職員全員で検討することを期待したい。
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望に応える様に対応している。選択権を与える様な声掛けも行い、自己決定出来るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重要な事は職員で決める事はあるが、基本本人の生活ペースに合わせている。出来るだけ強制せずに、行事やレクリエーション時には選択する様な声掛けをしている(するかしないかなど声掛け)。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者の大半は化粧水や乳液を使用される方が多い為、起床時や入浴後に使用して貰う様にしている。また起床時は髪の整容も行っている。男性利用者は髭剃りを手渡している(本人で出来る為)。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLが高い利用者が多い為、食事準備(盛り付けや配膳)や後片付け(食器洗いや台拭き)は基本利用者にして貰っている。食事は委託しているが味付けが良い様で、全利用者「いつも美味しい」と言われ好評で満足されている様子が伺える。月1回昼食会を行い利用者と一緒に食事を作って楽しみを持って行っている。	食事は法人の配食を利用している。誕生日にはケーキでお祝いし、季節に応じたバラエティー豊かな食事内容で、利用者が楽しく食事が出来るよう支援している。外食が出来ない今、敷地内で花見を兼ねてお弁当を食べた。職員はカロリーにも気を配り、工夫しながら支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握は毎食行っている。水分量が少ない利用者には経口補水液やスポーツドリンクを購入し飲用に努めている。献立は管理栄養士が1週間分作成し、厨房で作られたものを提供している。好みの部分や食事形態にも配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施している。口腔状態が悪い場合は歯科受診も行い、口腔内のケアにも努めている(月1度往診もして貰っている)。毎日夕食後、義歯を預かり(義歯がある利用者のみ)、入れ歯洗浄剤を使用し清潔に保つ様にしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的(食事前後やおやつ前など)にトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者1名のみ夜間は、熟眠を促す目的で大容量(1800cc)のパッドを使用している。	トイレはフロアーに車イス対応を含め2カ所ある。ポータブルトイレの利用者はいない。。排便も自然の通じが出来る様、食事や運動に気を配り、できる限り薬に頼らない支援を実践している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前中に体操を行っている。また、天候や気温が良い時は散歩も行っている。牛乳やヨーグルトなどの乳製品も飲食して貰っている。便秘が続く様な時は下剤も服用して貰っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人入浴を希望される利用者は、状況に合わせてながら入浴をして貰っている。(常に声掛けを行い安否確認はしている)。時間帯も随時変更したりして、希望に添う様な環境にしている。	入浴は週4~5回で午前と午後に行い、その人に適した入浴方法を行っている。浴槽に浸かるのが嫌な利用者は家族からの情報で、シャワー浴に変えスムーズに支援が出来た事例もある。入浴剤を使用し色や香りを楽しみ、季節にはゆず湯を楽しんでいる。職員はその人に合った入浴方法を工夫しながら支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに各々が睡眠しやすい環境にしている。また起床が遅い利用者に対しても配慮をしながら起床して貰っている(他利用者と違う時間に起床されている)。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後、確実に服用出来る様に服薬介助を行っている。夕食後夜勤者が翌日の薬準備をして2名(遅出者)で間違いが無い確認作業をしている。薬が変化した場合は、通院ノートや申し送りノートを活用し、全職員が把握出来る様にしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ(家事仕事など)を通じて役割分担を図り、生き甲斐や遣り甲斐を持って貰う様にしている。一人一人の嗜好に合わせたり、楽しみ事を増やして気分転換を図る様にしている。	職員と共に利用者は、体操・歌・レクリエーションや家事の好きな人は家事作業をしている。中には脳トレや前職の特技を活かした取り組みもある。希望があればアルコールのリクエストにも応じている。職員は毎日の暮らしを参考に、利用者の楽しみごとの支援に努めている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出援助(ドライブ外出のみ)は随時行っている。全体での外出は法人の許可を得てから行う様にしている。コロナ禍である為、人混みを避ける場所を選択している。要望がある場合は応じている。ご家族にも外出援助している事は伝えている。	職員は外の空気を感じて貰うため、天気の良い日は玄関先の庭や畑で、水やりや収穫をする利用者の支援をしている。また敷地内での歩行や、ごみ捨てや食事の運搬を兼ね、いつもの道を散歩する利用者もいる。職員は安心安全な外出や外気浴が出来る様にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、職員が希望する物を購入する様にしているが、お金を管理出来る利用者には本人に所持して貰い、何か買いたい物の要求がある場合は職員と一緒にお店に行き、購入して貰う様に支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書を書かれる利用者がいる為、やり取りが出来る様に支援している(葉書の購入やポスト投函など)。職員の都合で家族(または知人)に連絡した際は利用者にも出て貰う様に配慮している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月自作カレンダーを利用者と共に作成している。また、貼り絵も月が替わる度に作成し、終わった物は廊下などに掲載し、常に作品が見れる状態にしている。音・光・色などは特変問題は無いが、西側の棟に居室がある為(5部屋)、夕方になると西日が強まるのでカーテンを閉める等の配慮はしている。	リビングの壁は、レクリエーション担当職員と利用者が作ったカレンダーや季節の作品を飾っている。外出が出来ない現在は、リビングで運動会を開催することもある。日課になっている様々な体操も利用者は、職員と共にを行う場所になっている。常に窓を開け空気の入替えを行い、窓ふきは職員と一緒にやっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになるスペースは確保していない。気の合った者同士になる様に席替えは常時行っている(トラブル防止の為)。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物(筆筒やベッドも含む)や好みの物を家族にお願いして持参して貰い、家庭環境に近い形の部屋作りを行っている。	居室の入り口は名札やプレートを飾っている。ベッドは各自利用者が用意し、エアコンが備え付けられ、持参した収納ケースがある。全室同じ広さではなく、どの部屋も畳敷きで、今までの生活スタイルを大切にしたい支援がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が古い為、全てバリアフリーになっていない。廊下と居室の間に段差があり、また食堂の扉部分にも段差がある為、スロープを設置する様にしている(まだ完全ではない)。声掛けなどで転倒防止を図っている。すり足歩行にならない様にも工夫している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名

グループホーム希望の里

作成日

令和5年10月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	利用者に対して、親近感や安心感を持って貰う為に「おじいちゃん、おばあちゃん」や「〇〇ちゃん」等、「ちゃん」付けで呼んでいました。	職員一人一人が意識改革する様にして、利用者の人権の尊厳を守り、言葉遣いに注意していきます。特にコミュニケーション時は十分注意します。	ミーティングで議題に上げ、職員一人一人が意識を変えて行く様にします。また、今までの癖が出る可能性がありますので、気付いた職員はその都度お互いで注意し合う様にしていきます。	1 週間
2	5	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、利用者及び家族に参加して頂いています（持ち回りで1組ずつ）。議事録は関係機関（市や民生委員、他法人のGHなど）のみで家族には配布していなかった。	全利用者の家族に配布して、会議の内容を把握して貰う様にしていきます。	領収書及び請求書や便りなどと一緒に全利用者の家族に郵送して配布していきます。	1 ヶ月
3	36	立地条件が少し悪く（地域と少し離れている為）、地域と災害支援をする事が困難ではあり今まで行っていなかった。	地域と連携を図る為に、避難場所の確保や協力体制等、お互いが協力出来る体制を整えたい。	地域の防災訓練に参加し、協力体制を整える。10月に災害避難訓練が実施され通報訓練を行う予定にしている。	2 週間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。